



VI.VI

Certifier 簡易操作説明書

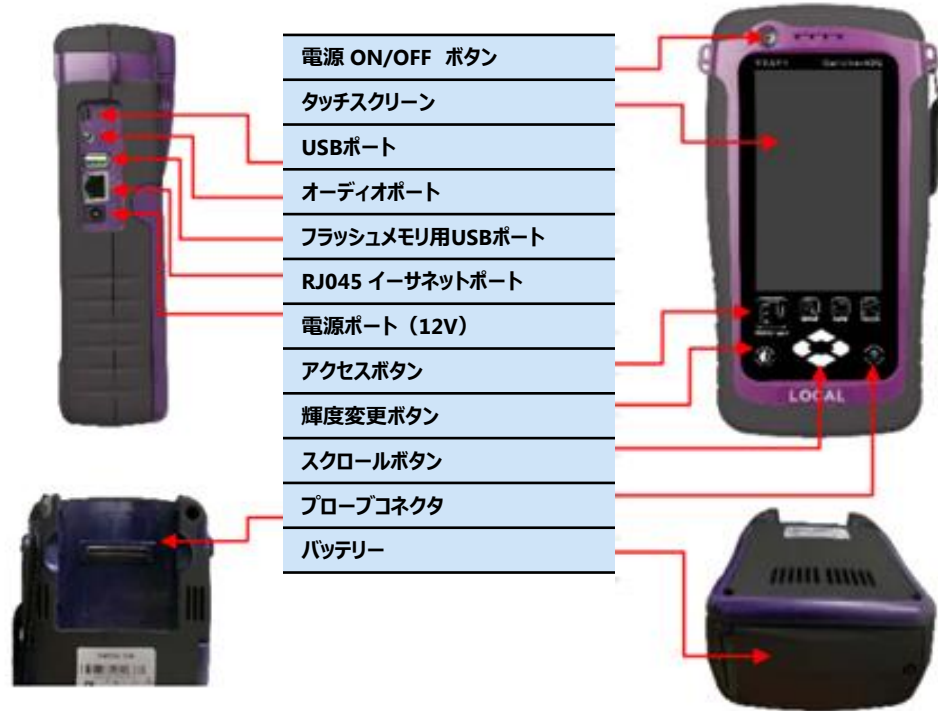
Viaviソリューションズ株式会社

2018/01



テスト前の操作: 基本操作とシステム設定

ハードウェア概要



仕様	値
高さ	220 mm
幅	110 mm
奥行	53 mm
重量	1kg (バッテリー付き)
動作温度	0° to 40° C
保存温度	20° to 60°C
相対湿度	10% - 80%

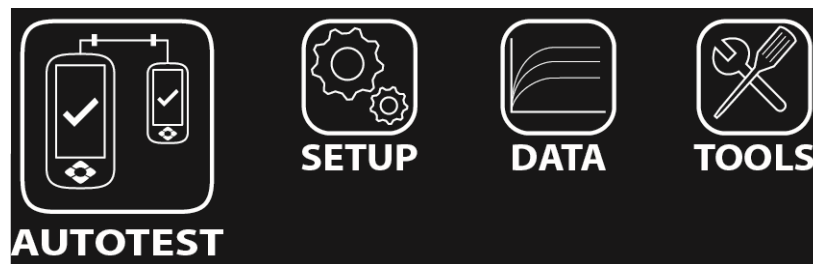
基本操作

Certifierの操作はスクリーン上でのタッチ操作で行うことができます。

※タッチスクリーンは強度をもったポリカーボネイト製ですが、ドライバーのような尖ったもので操作することはご遠慮ください。

スクリーン下には、下記4つのハードキーが配置されています。

- AUTOTEST
- SETUP
- DATA
- TOOLS



メイン設定画面

Certifierを起動すると、SETUP画面が表示されます。

SETUP画面は“SETUP”ハードキーを押すことで表示されます。



プロジェクト設定とシステムの設定はモジュールにかかわらず常に同じように表示されます。

クイックセットアップとテスト条件の設定は、使われるモジュールによって内容が変わります。

01-11-2017



クイックセットアップ

CAT 5e



テスト条件の設定

規格:

TIA - Cat 5e Channel

ケーブル:

Generic UTP

NVP: 68.0

コネク:

Generic Unshielded



プロジェクト設定

現場:

ViaviTest

ラベル名の候補:

Simple Label



システムの設定



プロジェクト設定画面

01-11-2017

プロジェクト設定

現場	ViaviTest >
作業者名	VIAVI >
ラベル名の候補	Simple Label >
自動保存	<input type="checkbox"/>
次のラベル	A-2

テスト プロジェクト

“プロジェクト設定”画面では、これからテストを実行するプロジェクトの設定を行います。

- **現場** – 作業する予定の現場名情報。アドレス情報や現場の情報を入力します。
- **作業者名** – テストを実行する作業者名。
- **ラベル名の候補** – テスト結果を保存する際のフォーマットを設定します。詳細は後述します。
- **自動保存** – ONにすると、テスト実行毎に結果を自動保存します。
- **次のラベル** – 次のテスト結果に付けられる予定のラベル名。“ラベル名の候補”での設定内容によって変わります。

現場の設定

プロジェクト設定

現場	ViaviTest >
作業者名	VIAVI >
ラベル名の候補	Simple Label >
自動保存	<input type="checkbox"/>
次のラベル	A-2

01-11-2017

現場

- Unspecified >
- ViaviTest >

< + ⚙

01-11-2017

新しい現場名

現場の住所

現場の注意事項

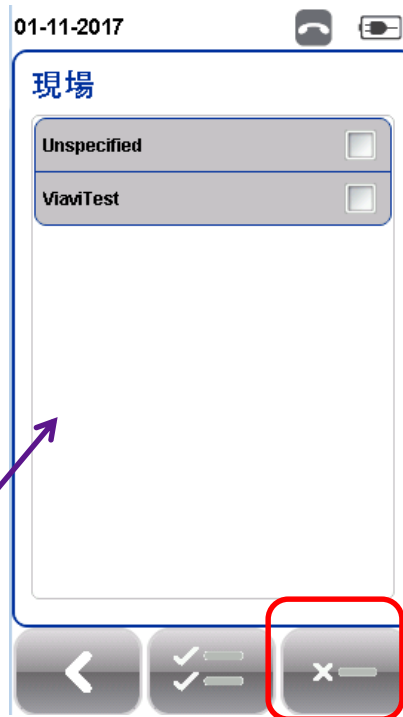
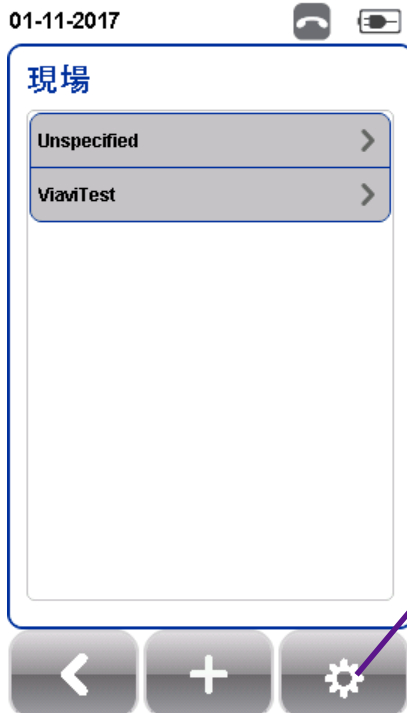
< ✓

現場名はプロジェクト設定画面から“現場”を選択し、スクリーン下部のアイコンで追加、削除が可能です。
+アイコンから新しい現場名を追加できます。既存の現場を選択すると、編集が可能です。

現場の設定

プロジェクト設定

現場	ViaviTest >
作業者名	VIAMI >
ラベル名の候補	Simple Label >
自動保存	<input type="checkbox"/>
次のラベル	A-2



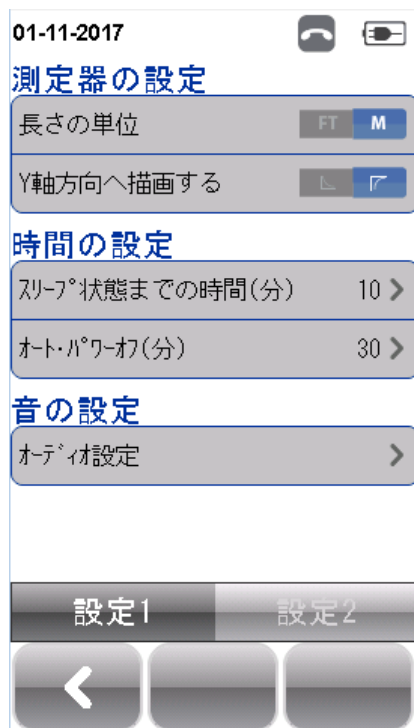
現場を選択して"x"をクリックすると削除されます。

現場名はプロジェクト設定画面から“現場”を選択し、スクリーン下部のアイコンで追加、削除が可能です。歯車のアイコンから任意の現場を選択して、削除出来ます。

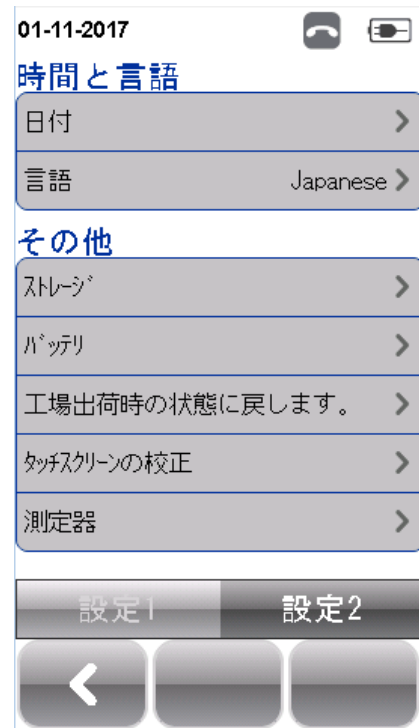
システムの設定

“設定 1 ”, “設定 2 ”のタブで設定を切り替えます。

システムの設定

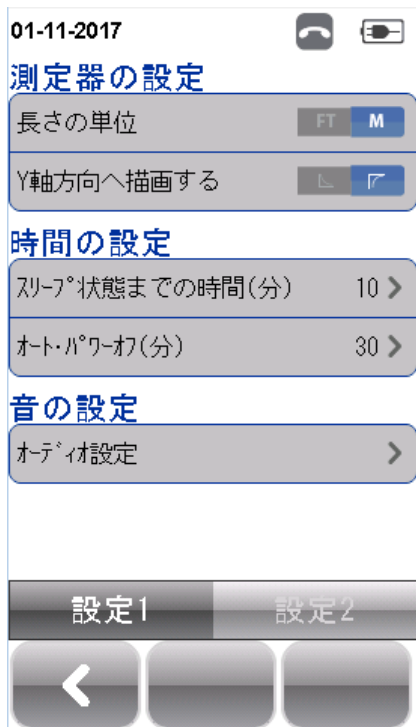


設定 1

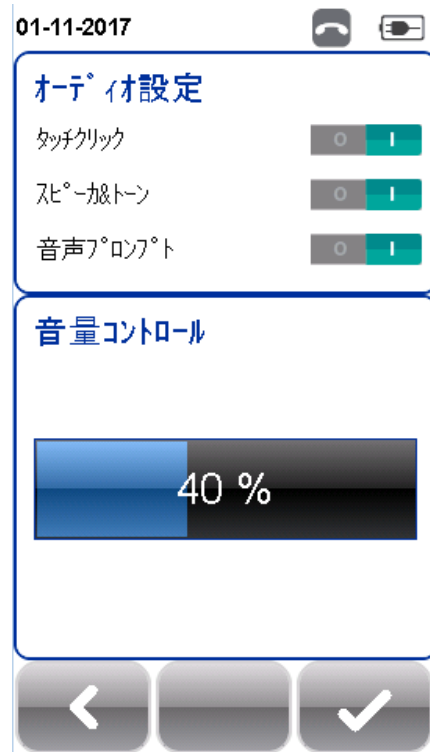


設定 2

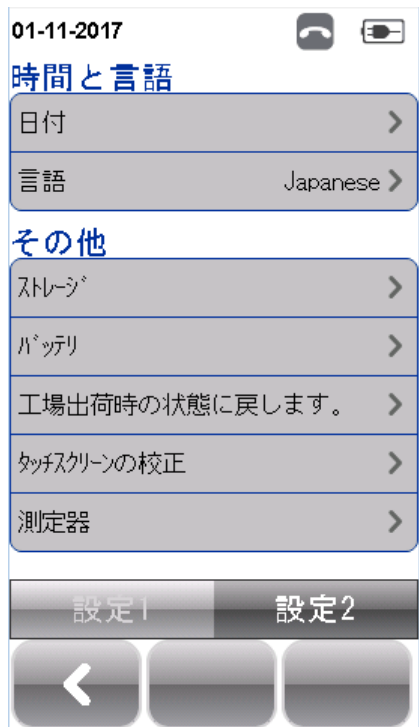
設定 1



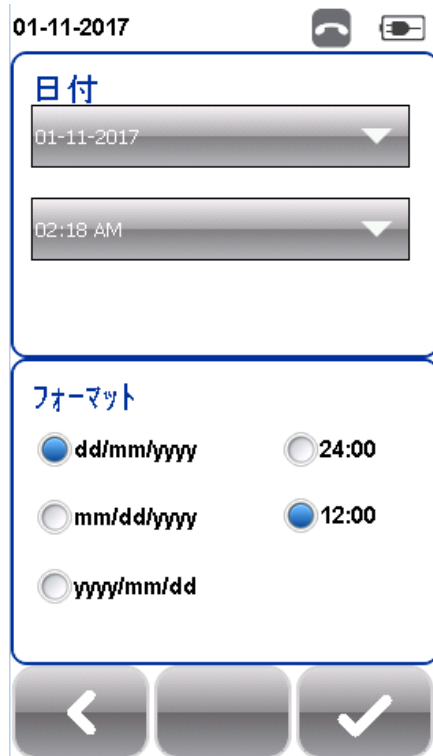
- 長さの単位 – FT (フィート) / M (メートル)
- Y軸方向へ描写する – グラフのY軸描写方向を反転
- スリープ状態までの時間 (分) – 無操作時にスリープ状態に移行するまでの時間
- オート・パワー・オフ (分) – 無操作時に電源OFFになるまでの時間
- オーディオ設定
 - 操作時の音のON / OFF切替と音量調整



設定 2



- 日付
 - 日付と時間の設定と、その表記方法を選択します。
- 言語 – 17言語から選択します。
- ストレージ – 内部およびUSBメモリのストレージ使用状況を確認できます。
- バッテリー – バッテリーの充電状況を確認出来ます。ローカルとリモートユニットが接続されている場合は、双方の情報が表示されます。
- 工場出荷時の状態に戻します – ユニットの設定を工場出荷時の状態に戻します。
- タッチスクリーンの校正 – 次ページ参照。
- 測定器 – ユニットの情報を表示します。ローカルとリモートユニットが接続されている場合は、双方の情報が表示されます。



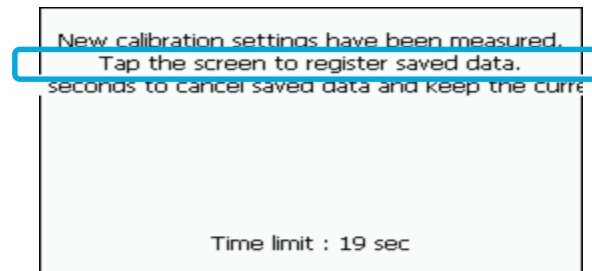
タッチスクリーンの校正

ローカル/リモートユニットのソフトウェアをアップデートした後は、
タッチスクリーンの校正が必要になります。

システムの設定 > 設定 2 > タッチスクリーンの校正

1. √ : 続行する場合 ⊘ : キャンセルする場合
2. "+" マークを順に付属品のスタイラスペンでクリックしていきます。
3. 全ての"+"マークをクリック後、スクリーンをタップして
新しい校正情報を保存します。

※画面上Time limitの秒数が0になる前に保存の為のクリックを
実施して下さい。



Toolsメニュー



“TOOLS”ボタンを押すとエキスパート向けのトラブルシューティングツールを起動出来ます。



基準値の設定：
リファレンスポイントからの
ロス基準値設定します



長さや遅延時間：
オープン状態でペアごとの
ケーブル長、遅延、NVP(伝
播速度)を測定します



ワイヤーマップ：
ケーブルのワイヤーマップを確
認します



NVP値の測定：
ケーブル長入力後、NVP値
を測定します



モジュールリセット：
チャンネル、パーマネントリン
クアダプタの使用回数をリセッ
トします



メーカーの紹介：
Viaviソリューションズの窓口
情報を表示します



工場向けの校正：
ユーザーには使えません

基準値の設定実行（TOOLSメニュー）

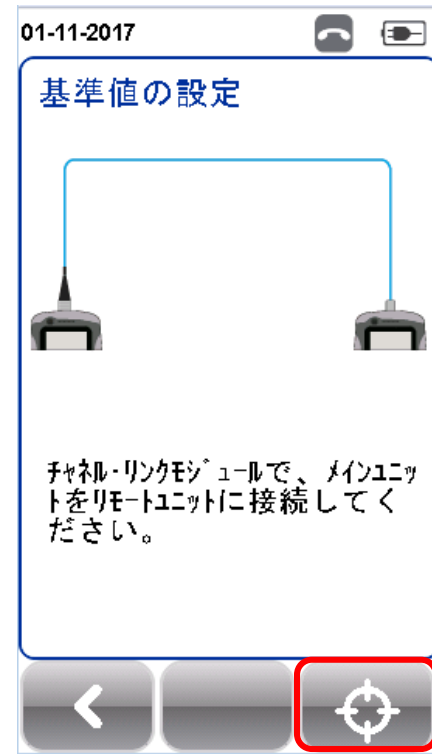


基準値の設定実行はソフトウェアアップデート実行後は必ず実行して下さい。

1. ローカルユニットにリンクアダプターを装備、リモートユニットにチャンネルアダプターを装備してパーマネントリンクテストケーブルで接続
2. ローカルユニットでTOOLSキーを押す
3. “基準値の設定”を選択
4. OKアイコンをクリック



※ローカルユニットは、基準値のセットを10リモートユニットに対してまで保持できます。

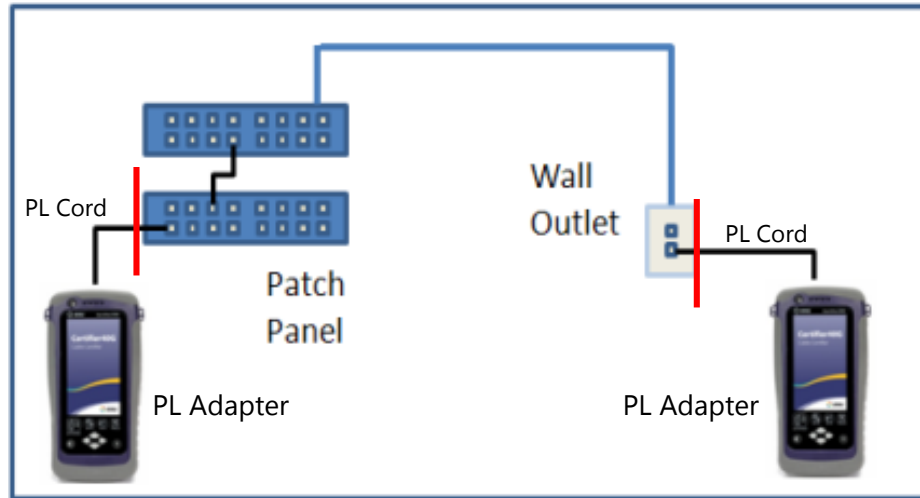


A hand holding a smartphone is shown in the lower-left corner. The phone's screen is lit up. A large, semi-transparent blue shape covers the right and top portions of the image. The background is a blurred bokeh of light spots in various colors (blue, white, yellow).

テスト実行時の操作: 設定と自動テスト

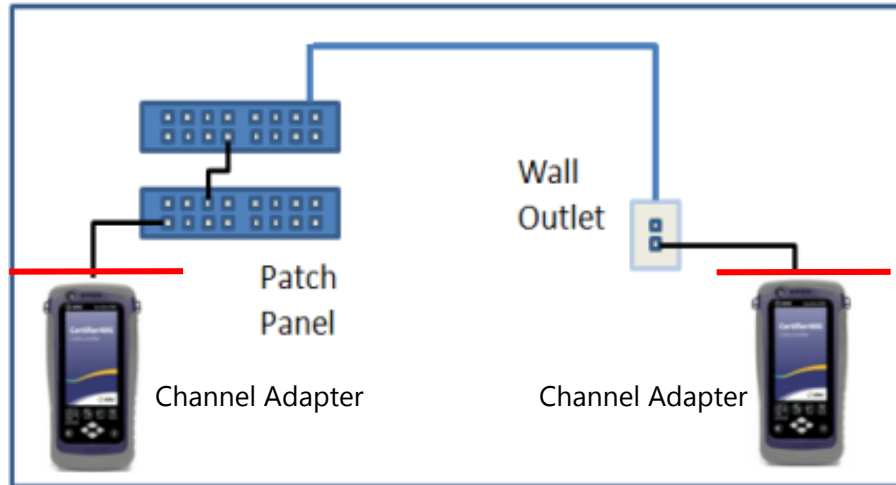
パーマネントリンク試験

測定はパーマネントリンクアダプタを使用して行います。
リファレンスポイントはパーマネントテストコードの終端です。
測定器はアダプターテストコードの影響を除去します。



チャンネルリンク試験

測定はチャンネルアダプターを使用して行います。
リファレンスポイントはチャンネルアダプタのコネクタです。
テスターはアダプタの影響を除去します。



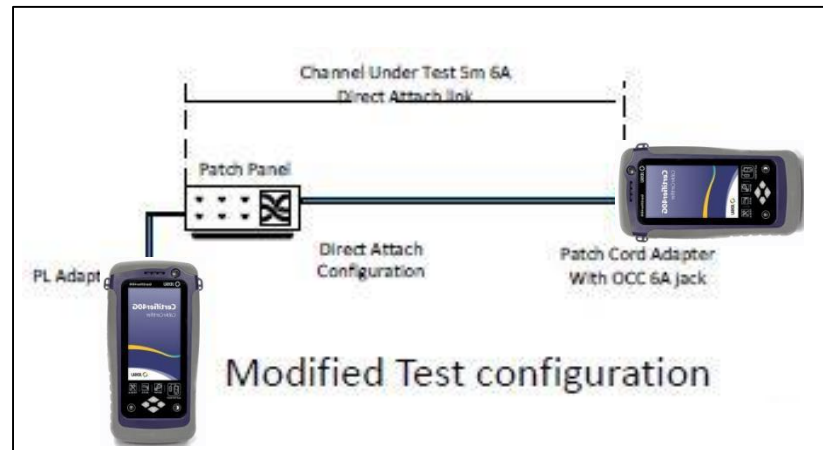
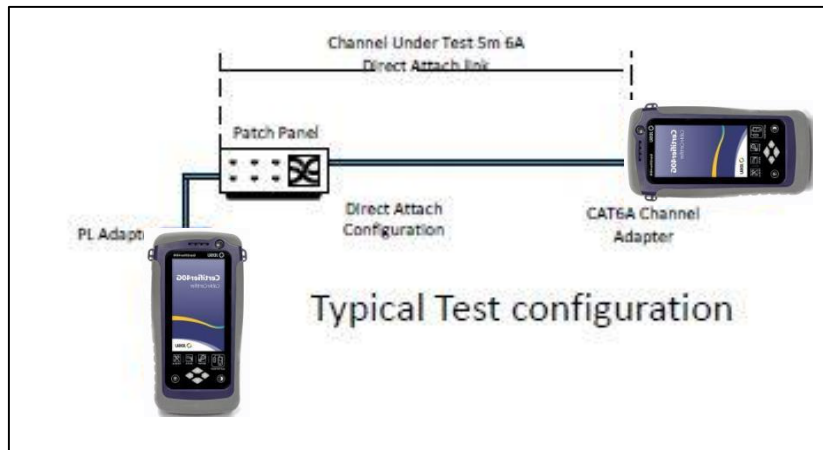
パッチコードテスト試験

- 測定はオプションのカテゴリ固有のパッチコードアダプタを使用していきます。
- テスターはアダプタの影響を除去します。
- RJ45コネクタとパッチコードは測定値に含まれます。
- 通常ケーブルメーカーが使用します。



直接接続（ダイレクトアタッチリンク）試験

- 測定は片方のユニットにダイレクトアタッチパーマネントリンクアダプタを使用し、もう片方のユニットにチャンネルアダプタあるいはカテゴリ固有のパッチコードアダプタを使用して行います。
- テスターはアダプターの影響を除去します。
- RJ45コネクタは測定に含まれます。
- 通常ワイヤレスアクセスポイント、セキュリティカメラ等の機器を設置するエンジニアが使用します。



簡単操作手順

1. ローカルユニットにパーマネントリンクアダプタを装着、
リモートユニットにチャンネルアダプタを装着、
パーマネントリンクテストコードで接続して基準値の設定を実行
2. クイックセットアップもしくはテスト条件の設定を実行
3. プロジェクト設定で現場情報を作成
4. ラベリングのルールを設定
5. **AUTOTESTボタンで試験実行**



テスト設定



SETUP画面では一般的な**クイックセットアップ**か、ケーブル・コネクタのメーカーを指定するテスト条件の設定を選べます。



クイックセットアップ – 一般的な簡単設定

テスト条件の設定 – ケーブルやコネクタの設定を加味した詳細設定

クイックセットアップ

クイックセットアップではケーブルタイプを選択します。

- アンシールド (UTP) /シールド (FTP)
- カテゴリ / クラス

クイックセットアップ

CAT 6A

>

CAT 5e
CAT 6
CAT 6A
Class D
Class E
Class EA

クイックセットアップ

CAT 6A

>

テスト条件の設定

規格:
TIA - Cat 6A Channel

ケーブル:
Generic UTP

NVP: 68.0

コネクタ:
Generic Unshielded

>

規格が決まると、Certifierはローカルユニットに接続されたアダプタを識別し、自動的に設定を行います。

例：CAT 6Aがクイックセットアップで選択されると、ローカルアダプタに接続されているパーマネントリンクアダプタを識別し、CertifierはGeneric UTP, Generic Unshieldedコネクタを使用したCat 6Aパーマネントリンク試験を設定します。

テスト条件の設定

01-11-2017

クイックセットアップ
CAT 6A

テスト条件の設定
規格:
TIA - Cat 6A Channel
ケーブル:
Generic UTP
NVP: 68.0
コネクタ:
Generic Unshielded

プロジェクト設定
現場:
ViaviTest
ラベル名の候補:
Simple Label

システムの設定

01-11-2017

テスト規格
TIA - Cat 6A Channel

ケーブル&コネクタ
ケーブル: CAT 6A UTP
メーカー: Generic UTP
NVP: 68.0
コネクタ: UTP Mod Jack 6A
メーカー: Generic Unshielded

詳細設定
テスト・オプション

テスト プロジェクト

テスト条件の設定はケーブル及びコネクタを指定したい場合に使用します。

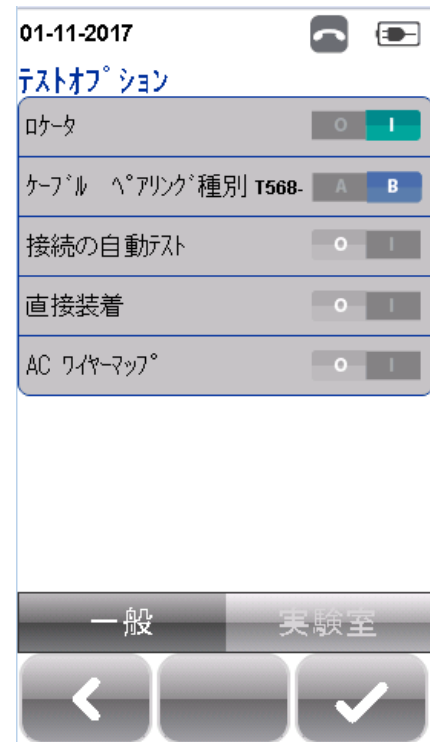
- **テスト規格** – 実行したいテスト規格を選択
- **ケーブル** – テスト対象のケーブルメーカーを選択
メーカーが不明の場合は“Generic”の中から選択
特定のケーブルがリストにない場合もしくは特注品の場合、“Customized Cable”を選択し、新しい定義を作成
- **NVP** – Nominal Velocity Propagation – 通常ケーブルスプールか箱のラベルに記載されている値
ケーブル会社へ問い合わせることも可能
正確なNVP値の利用でより正確なケーブル長測定が可能
- **コネクタ** – ケーブル選択と同様にメーカーとコネクタを選択

テストオプション

テストオプションでは追加の試験設定を選択できます。
※実験室タブはパスワードで保護されており、使用できません。

一般タブには5つのテストオプションがあります。

- **ロケータ** – ロケータ機能のON/OFFを選択、デフォルトではON
- **ケーブルペアリング種別** – T568A/T568Bを切り替える
(カラーコード表示のみに影響)。デフォルトではT568B
- **接続の自動テスト** – ローカルとリモートユニットが接続された時点で自動テストを実行、デフォルトではOFF
- **直接装着** – ダイレクトアタッチパーマネントリンクを使用する時に使用、デフォルトではOFF
- **AC ワイヤーマップ** – PoE (Power Over Ethernet) ミッドスパンデバイスが間にあっても測定できるようになります。デフォルトではOFF

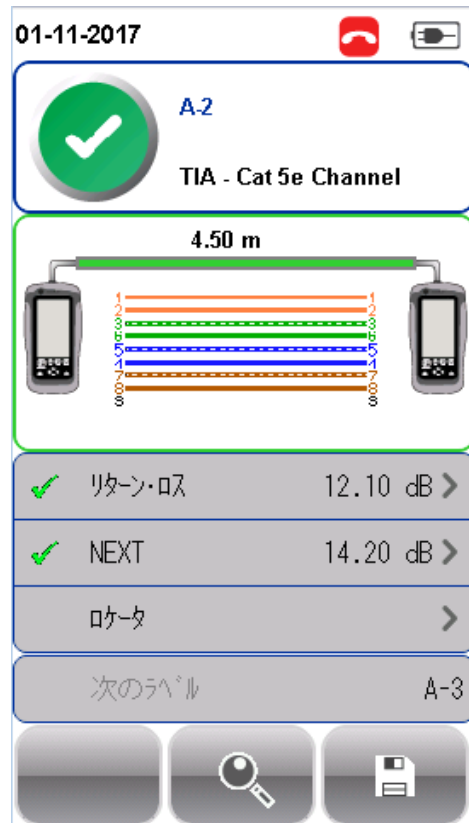


AUTOTEST実行



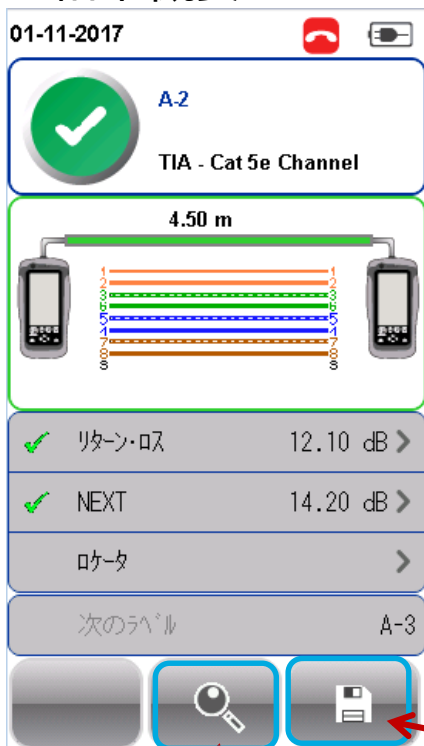
1. 設定完了後、ケーブルもしくはリンクをCertifierに接続
2. AUTOTESTキーでテスト実行
3. 試験完了後、“Pass” / “Fail”をアイコンで表示

結果概要、全結果表示はローカル/リモート両ユニットから閲覧出来ます
結果詳細はローカルユニット側で閲覧できます。



テスト結果

・ 結果概要



詳細グラフ閲覧には > アイコンをクリック
(ローカルユニットのみ)

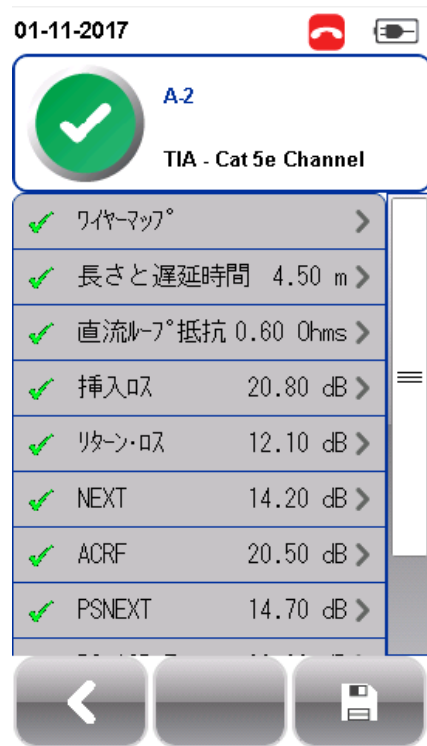
2種類の最悪マージンが表示されます。
全結果を閲覧するには、虫眼鏡アイコンをクリックします。

← ロケータ表示

↑ 全結果表示

← データ保存

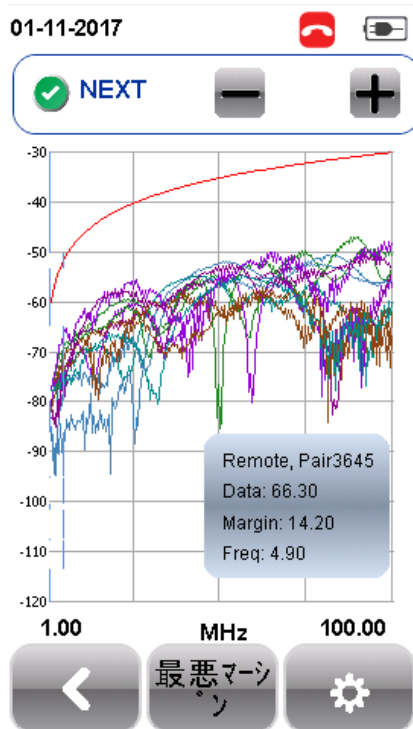
・ 全結果表示



結果詳細閲覧

ローカルユニットにて全結果表示からグラフ、
テーブル表示を含む結果詳細を閲覧できます。

グラフ表示



テーブル表示

01-11-2017

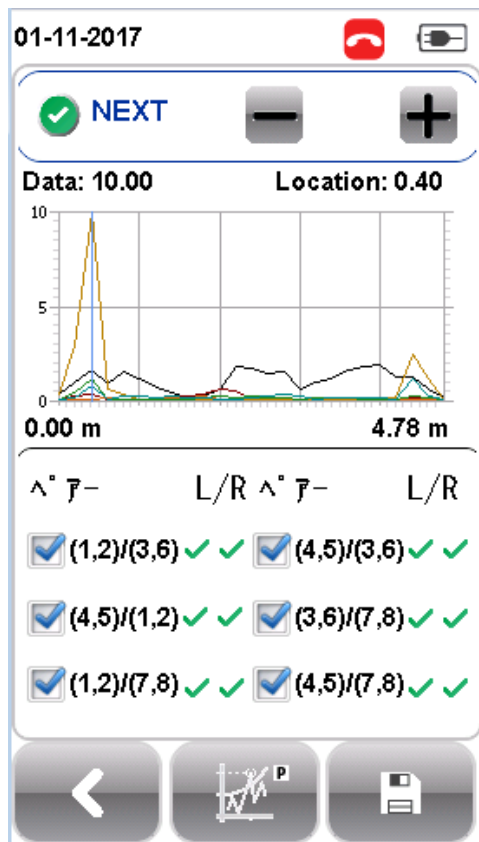
✓ A2
TIA - Cat 5e Channel

長さ 4.50 m
NVP 68.0

ケーブル	長さ (m)	遅延
ケーブル 12	4.60	24
ケーブル 36	4.50	24
ケーブル 45	4.50	24
ケーブル 78	4.60	24
全体	4.50	
伝搬遅延		0

< ⏪ ⏩ ⏹

ロケータ



ローカルユニットにて結果概要画面からロケータを選択することで、NEXTロケータおよびRLロケータを閲覧できます。

ワーストNEXT / RLが10として表示されます。

各ペア毎にチェックボックスで表示のON/OFFが可能です。

200mまでのケーブル測定が可能です。

テスト後の操作: データの閲覧と取扱

データマネジメント

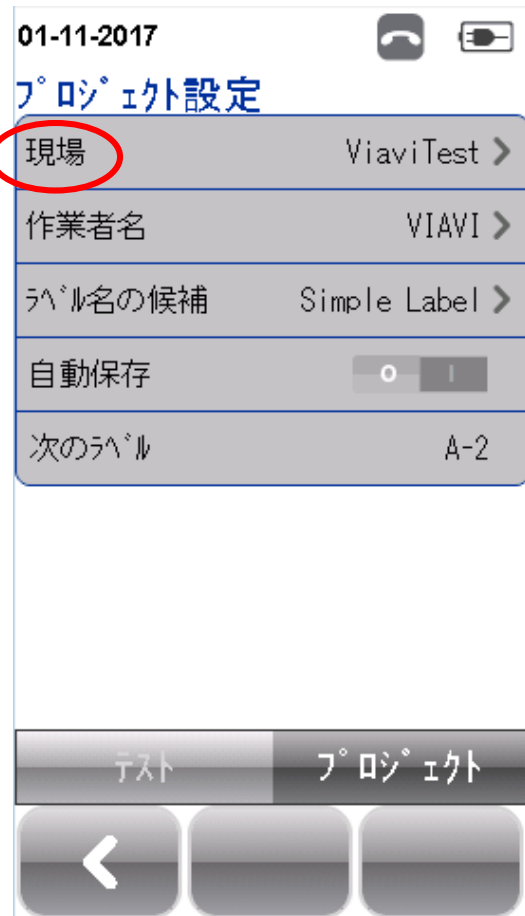


テスト結果は現場名毎に保存されます。

テスト結果はJ-Reporterツールに現場ごとにインポート出来ます。

“Unspecified”はデフォルト値であり、変更/削除は出来ません。

DATAキーを押すことで、現場ごとのデータ編集や閲覧が出来ます。



データマネジメント (テスト結果)

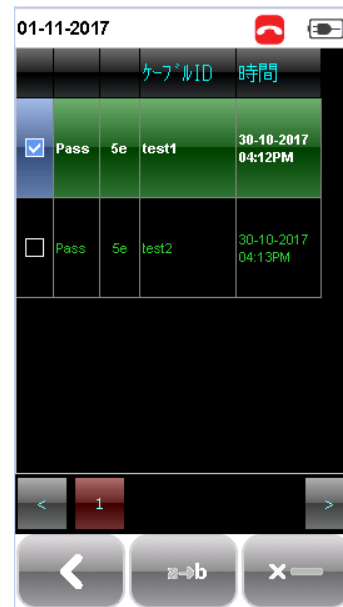
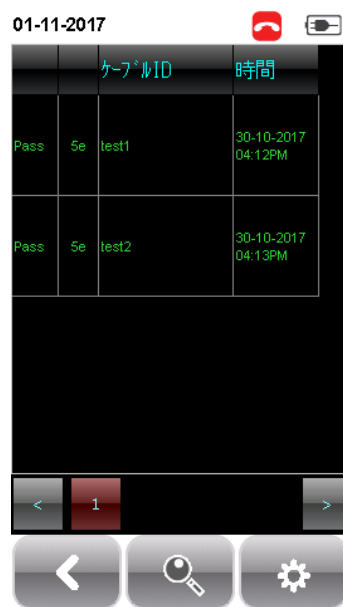
“DATA”キーを押して、データ画面を呼び出します。現在の現場名とそこに保存されているテスト結果が表示されます。

テスト結果一覧には以下の各カラム情報が表示されます。

- Pass/Fail, 規格,
ケーブルID (テスト名), 時間

各テスト結果に対して
以下の作業が可能です。

- ケーブルID編集
- 削除
- 閲覧



J-Reporterツールへの出力

本体に保存されたテスト結果は以下の方法で外部出力可能です。

USB フラッシュドライブ 経由

1. USBメモリをCertifierのUSBポートに接続
2. デバイスは自動認識されますが、されない場合は“SETUP”ボタンを押し、システムの設定 > 設定 2 > ストレージ > USBを選択します。
3. USBメニューが開いたら、“テスト結果”を選択
4. 任意の現場を選択して、“Copy Selected Sites”を選択して結果をコピー
5. PCでJ-Reportソフトウェアを起動
6. メニューから ファイル > 新しいプロジェクトを選択し、プロジェクトを作成
7. メニューから インポート > USBドライブを選択し、USBドライブを指定して“インポート”をクリック
8. 任意の現場を選択し、“選択したファイルのインポート” か、全てインポートをクリックしてデータを読み込む



J-Reporterツールへの出力

USBケーブルで直接PCと接続

1. Certifierをmini USBケーブルでPCに接続
2. J-Reportソフトウェアを起動
3. メニューから ファイル > 新しいプロジェクトを選択し、プロジェクトを作成
4. メニューから インポート > デバイスを選択
5. 任意の現場を選択し、“選択したファイルのインポート” か、全てインポートをクリックしてデータを読み込む

The screenshot shows the J-Reporter software interface. The 'Import' menu is open, with 'デバイス' (Device) highlighted. Below it, 'USBドライブ' (USB Drive) is selected. The main window displays a table of test results for two tests, 'test1' and 'test2'.

テストタイプ	デバイスタイプ	ケーブルラベル	全体的結果	リポートタイプ	全長(前)	NEXTマージン(dB)	RLマージン(dB)	タイムスタンプ
マイクロUTP	Certifier40G	test1	✓	TIA - Cat 5e Channel 4.4	15.1	10.9		30/10/2017 04:12...
マイクロUTP	Certifier40G	test2	✓	TIA - Cat 5e Channel 4.4	15.0	10.9		30/10/2017 04:13...

Below the table, there are two summary sections: '概要' (Summary) and '全体的結果' (Overall Results).

概要

メインシリアルNo.	jw20303251
リモートシリアルNo.	jw20303252
ケーブルメーカー	Generic UTP
ケーブル名	CAT 5e UTP
ケーブルタイプ	Unshielded
コネクタメーカー	Generic Unshielded
コネクタ名	UTP Mod Jack 5E
コネクタタイプ	Unshielded
規格	TIA - Cat 5e Channel

全体的結果

測定	Value/Margin
長さ (m)	4.4
遅延 (ns)	24.0
NVP (%)	68.0
抵抗 (Ohms)	1.4
挿入損失 (dB)	1.3
リターンロス (dB)	10.9
NEXT (dB)	15.1
PSNEXT (dB)	15.6
ACRF (dB)	20.1
PSACRF (dB)	20.8
ACRN (dB)	-

At the bottom of the window, it says '試験結果の合計: 2 選択された試験結果: 1'.

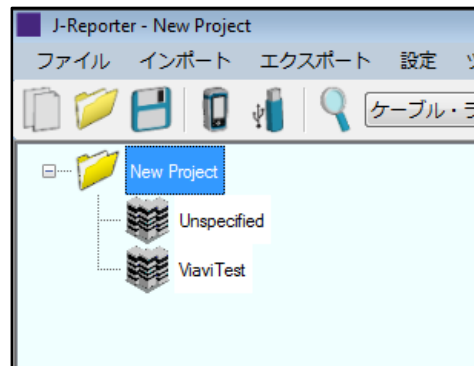
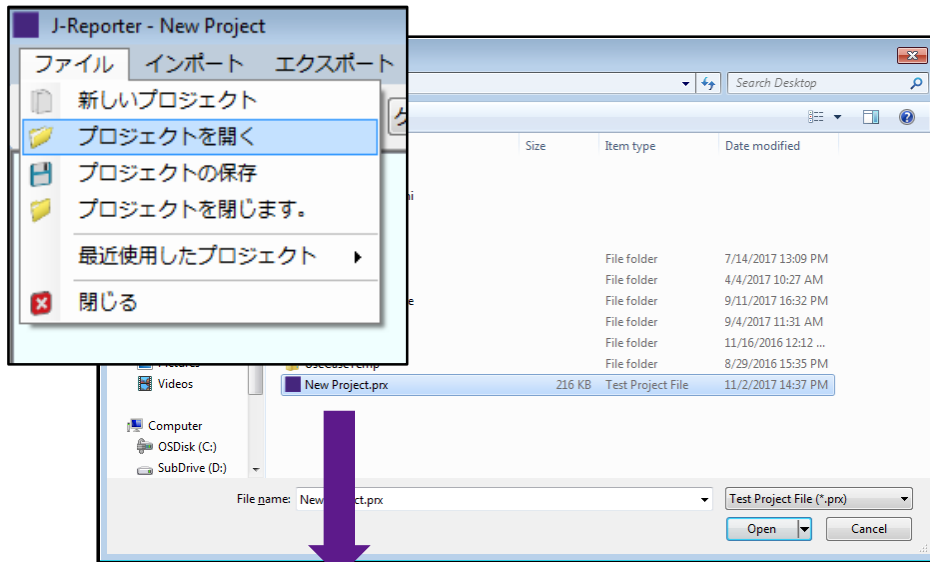
テスト後の操作: J-Reporter操作

J-Reporter – プロジェクト

プロジェクト毎にファイルが作成されます。
1プロジェクトに複数の現場情報が保存されます。

ファイル > ...

- 新しいプロジェクト：新規ファイルを作成
- プロジェクトを開く：既存ファイルを読み込
- プロジェクトの保存現在開いているプロジェクトをファイルに上書き保存
- プロジェクトを閉じます：プロジェクトを画面から削除
※ファイル自体は削除されません。



J-Reporter – 結果の閲覧

画面内で任意のプロジェクトを選択すると、プロジェクト内の全テスト結果が一覧表示されます。

プロジェクト配下の現場を選択すると、その現場内で保存した結果が表示されます。

ケーブルタイプ（ケーブル長、規格等、ラベル等で一覧結果にフィルタをかけられます）

The screenshot shows the J-Reporter interface with a table of test results and two summary panels. The table has columns for Test Type, Device Type, Cable Label, Overall Status, Limit Type, Length (m), NEXT Margin (dB), RL Margin (dB), and Timestamp. The summary panels show project details like serial numbers and cable specifications, and a detailed list of test results for 'test1'.

	テストタイプ	デバイス・タイプ	ケーブル・ラベル	全体の結果	リミットタイプ	全長 (m)	NEXTマージン (dB)	RLマージン (dB)	タイムスタンプ
▶ 1	ツイストペア	Certifier40G	test1	✓	TIA - Cat 5e Channel	4.4	15.1	10.9	30/10/2017 04:12...
2	ツイストペア	Certifier40G	test2	✓	TIA - Cat 5e Channel	4.4	15.0	10.9	30/10/2017 04:13...
3	ツイストペア	Certifier40G	testA	✓	TIA - Cat 5e Channel	4.5	13.5	12.8	01/11/2017 01:27...

概要	
メインシリアルNo.	jw20303251
リモートシリアルNo.	jw20303252
ケーブルメーカー	Generic UTP
ケーブル名	CAT 5e UTP
ケーブルタイプ	Unshielded
コネクタメーカー	Generic Unshielded
コネクタ名	UTP Mod Jack 5E
コネクタタイプ	Unshielded
規格	TIA - Cat 5e Channel

全体の結果	
測定	Value/Margin
長さ (m)	4.4
遅延 (ns)	24.0
NVP (%)	68.0
抵抗 (Ohms)	1.4
挿入損失 (dB)	1.3
リターンロス (dB)	10.9
NEXT (dB)	15.1
PSNEXT (dB)	15.6
ACRF (dB)	20.1
PSACRF (dB)	20.8
ACRN (dB)	-

This screenshot shows the same J-Reporter interface but with a filter applied to the 'Cable Label' column. Only the test result for 'testA' is visible in the table. A callout box at the bottom right indicates that only the data for the selected site is displayed.

	テストタイプ	デバイス・タイプ	ケーブル・ラベル	全体の結果	リミットタイプ	全長 (m)	NEXTマージン (dB)	RLマージン (dB)	タイムスタンプ
▶ 1	ツイストペア	Certifier40G	testA	✓	TIA - Cat 5e Channel	4.5	13.5	12.8	01/11/2017 01:2...

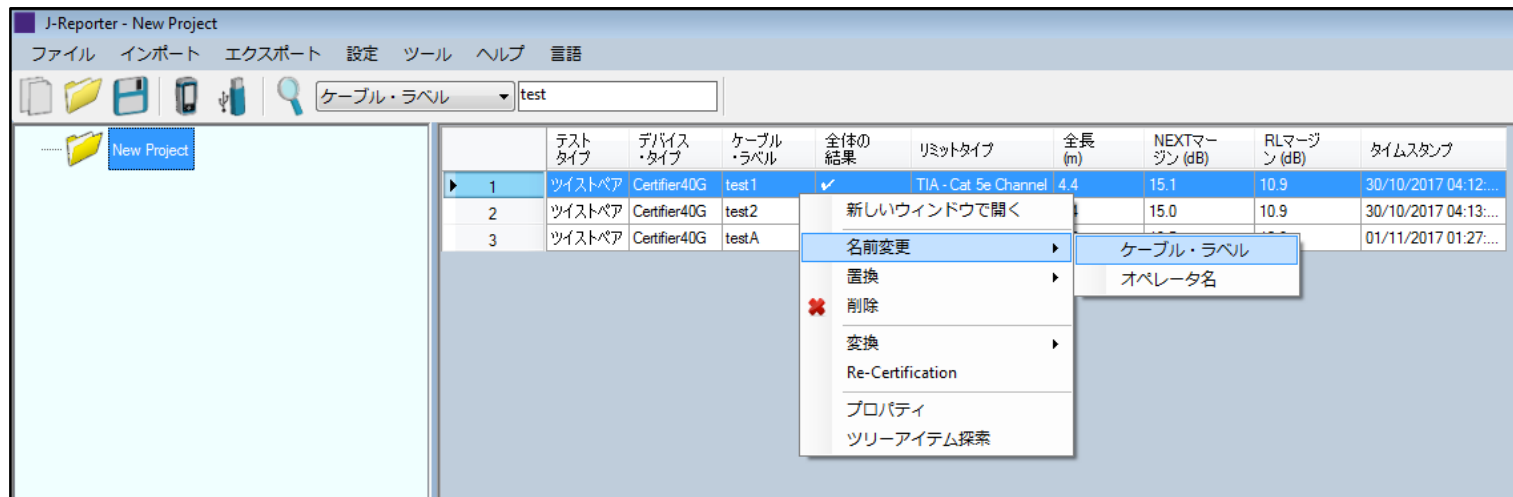
This screenshot shows the 'Cable Label' dropdown menu in the J-Reporter interface. The menu is open, showing options like 'All', 'Twisted Pair', 'Single Mode Fiber', etc. A red box highlights the 'Test Type' dropdown, and another red box highlights the 'Twisted Pair' option, indicating that filters can be applied to the results.

結果表示にフィルタ適用

選択した現場のデータのみ表示

J-Reporter – 結果の閲覧

任意のテスト結果を 右クリック > 名前変更 からケーブル・ラベル名や作業者名を変更出来ます。



The screenshot shows the J-Reporter software interface. The main window displays a table of test results. A context menu is open over the first row, showing options for renaming the cable label and operator name.

	テスト タイプ	デバイス ・タイプ	ケーブル ・ラベル	全体の 結果	リミットタイプ	全長 (m)	NEXTマー ジーン (dB)	RLマー ジーン (dB)	タイムスタンプ
▶ 1	ツイストペア	Certifier40G	test1	✓	TIA - Cat. 5e Channel	4.4	15.1	10.9	30/10/2017 04:12:...
2	ツイストペア	Certifier40G	test2				15.0	10.9	30/10/2017 04:13:...
3	ツイストペア	Certifier40G	testA						01/11/2017 01:27:...

The context menu options are:

- 新しいウィンドウで開く
- 名前変更 ▶ (Sub-menu: ケーブル・ラベル)
- 置換 ▶ (Sub-menu: オペレータ名)
- ✖ 削除
- 変換 ▶
- Re-Certification
- プロパティ
- ツリーアイテム探索

J-Reporter – 結果詳細の閲覧

一覧表示されたテストの1つをダブルクリックすると、テスト結果の詳細が表示されます。

画面下部のタブを切り替えて、結果要約、テスト設定内容、計測器情報を確認出来ます。

任意のテストをダブルクリック

テストタイプ	デバイス・タイプ	ケーブル・ラベル	全体の結果	リミットタイプ	全長 (m)	NEXTマージン (dB)	RLマージン (dB)	タイムスタンプ	
1	ツイストペア	Certifier40G	test1	✓	TIA - Cat 5e Channel	4.4	15.1	10.9	30/10/2017 04:12...
2	ツイストペア	Certifier40G	test2	✓	TIA - Cat 5e Channel	4.4	15.0	10.9	30/10/2017 04:13...
3						13.5	12.8	01/11/2017 01:27...	

要約

Measurement	マージン (dB)
挿入ロス	27
リターンロス	12.8
NEXT	13.5
PSNEXT	14.9
ACRF	20.6
PSACRF	21.6

テスト設定

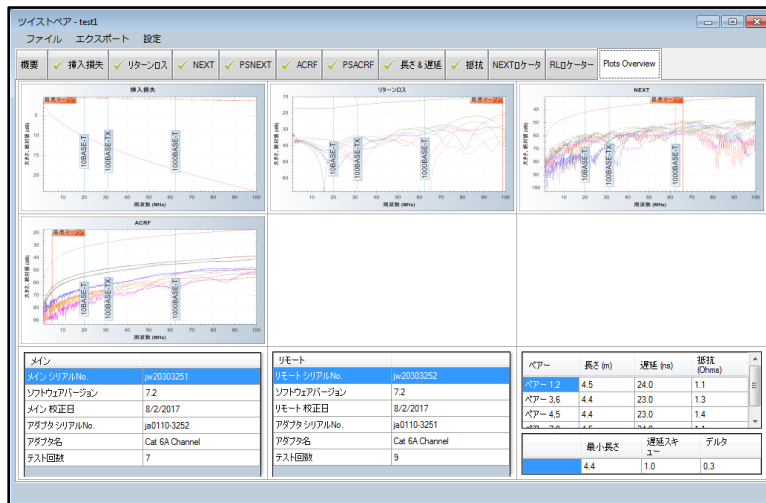
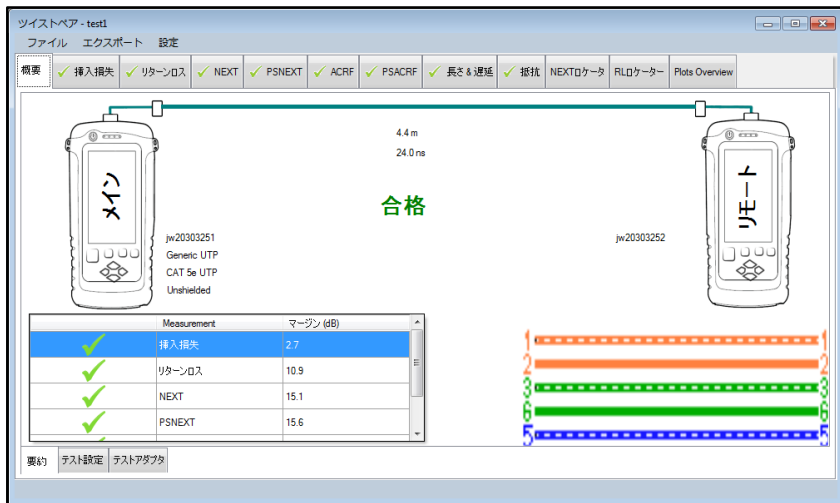
テストタイプ	test1
規格	TIA - Cat 5e Channel
プラットフォーム	ViaviTest
ケーブルメーカー	Generic UTP
ケーブルタイプ	CAT 5e UTP
ケーブルタイプ	Unshielded
ケーブルタイプ	P12 P16 P45 P75
ケーブルタイプ	T568B
ケーブルタイプ	Generic Unshielded
ケーブルタイプ	UTP Mod Jack 9E
ケーブルタイプ	Unshielded
ケーブルタイプ	VIavi

テストアダプタ

アダプタ	ポート
メインシリアルNo.	jw20303251
リモートシリアルNo.	jw20303252
ケーブルタイプ	Generic UTP
ケーブルタイプ	CAT 5e UTP
ケーブルタイプ	Unshielded
ケーブルタイプ	P12 P16 P45 P75
ケーブルタイプ	T568B
ケーブルタイプ	Generic Unshielded
ケーブルタイプ	UTP Mod Jack 9E
ケーブルタイプ	Unshielded
ケーブルタイプ	VIavi

J-Reporter – 結果詳細の閲覧

詳細上部のタブを切り替えて、各テスト項目の結果詳細を切替表示できます。



J-Reporter – レポート作成

メニュー > エクスポートからレポートを作成できます。
PDF, CSVでそれぞれ概要もしくは詳細のレポートを作成できます。

VIAVソリューションズ サマリーレポート

ケーブルラベル	結果	長さ (m)	NEXTマージン (dB)	規格	日時
test2	<input checked="" type="checkbox"/>	4.4	15	TIA - Cat 5e Channel	10/30/2017 16:13:47 PM

選択された試験結果の合計

合格	不合格	長さ (m)
1	0	4.4

概要レポート例

VIAVI ツイストペア認証レポート

ケーブルラベル: test1 全体の結果:

日時: 10/30/2017 16:12:48 PM
リモットタイプ: TIA - Cat 5e Channel
ケーブル名: CAT 5e UTP
コネクタ名: Unspecified
オペレータ名: VIAVI

ビルド: Unspecified-Building
フロア: Unspecified-Floor
ルーム: Unspecified-Room
ラック: Unspecified-Rack
パネル: Unspecified-Panel

メイン シリアルNo.: jw20303251 リモート シリアルNo.: jw20303252
メイン アダプタ: Cat 6A Channel リモート アダプタ: Cat 6A Channel
メイン 校正日: Aug 2 2017 リモート 校正日: Aug 2 2017
デバイスソフトウェア: 7.2 ソフトウェアレポート: Bu1d_#424_7.2_2016-05-25_11-52-05

ワイヤーマップ: 合格

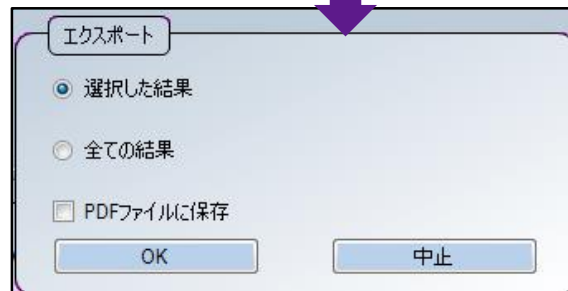
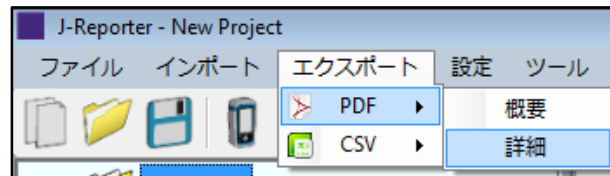
長さ (m)	値	規格	マージン
WPP	4.4	100.0	95.6
伝播遅延 (ns)	24.0	555.0	531.0
遅延スキュール (ns)	1.4	50.0	49.0
抵抗 (Ohms)	1.4	25.0	23.6

ワイヤーマップ: T568B

挿入損失: 合格

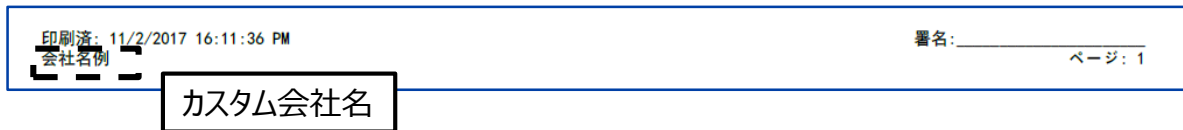
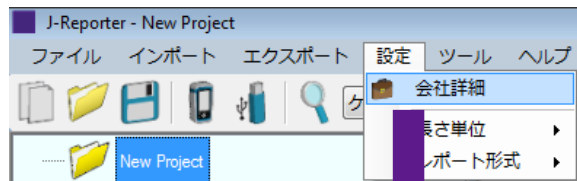
最大マージン: Mean	Maxat_Value
メイン: 12	12
ペアー: 0.3	0.3
規格 (dB): 3.0	3.0

詳細レポート例



J-Reporter – レポート作成 ログ編集

メニュー > 設定 > 会社詳細からレポートに記載する
会社名とロゴを編集出来ます。





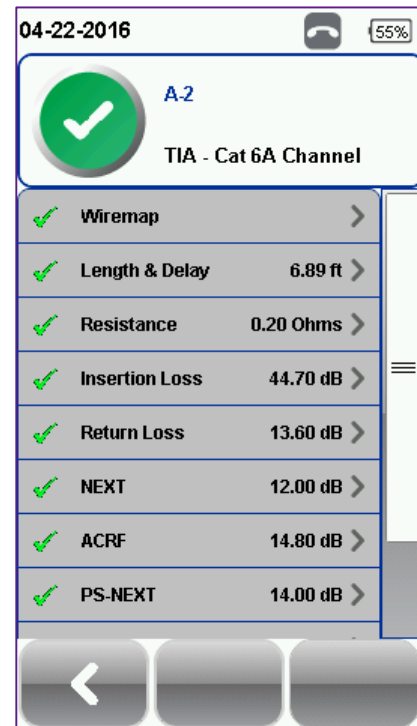
VI.VI

www.viavisolutions.com

ケーブルテストパフォーマンス項目 – リファレンスシート

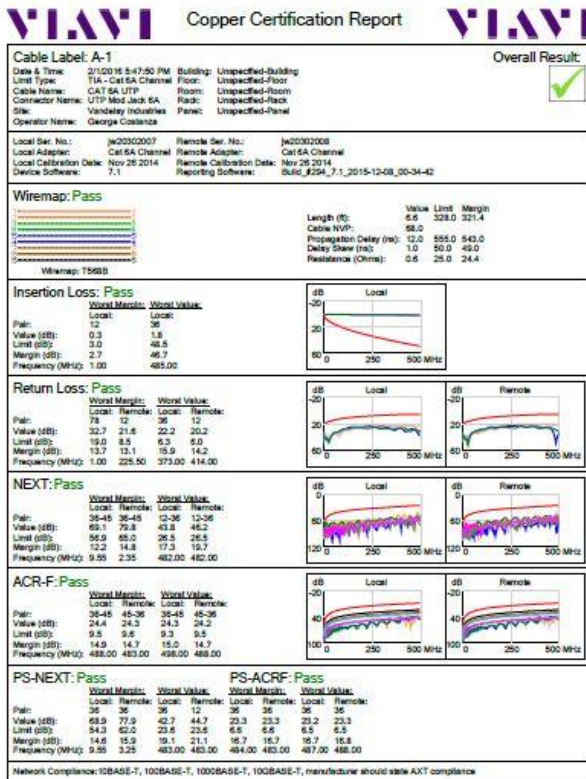
測定	定義
ワイヤーマップ	ピン毎にケーブルが正常に終端されているかの確認
長さ	試験対象のケーブル長
直流ループ抵抗	遠端でループバックしたツイストペア導体間の抵抗値
挿入ロス	ケーブル間信号の挿入損失
リターン・ロス	インピーダンスミスマッチによって起こるケーブルの反射損失
NEXT	近端での別ペア毎の干渉
PSNEXT	近端での別ペア毎の干渉合計
ACR-F (ELFEXT)	挿入損失を除去した、遠端での別ペアからの干渉
PS ACR-F	挿入損失を除去した、遠端での別ペアからの干渉合計
遅延	ケーブル間の信号伝送遅延
ペア間遅延スキュー	遅延の最小ペアと最大ペア間の遅延差
ACR-N	挿入損失とNEXTとの差分
PS ACR-N	個々のペアが他3ペアから影響を受けるACR-N合計

} ISO only



レポート作成

- ANSI/TIA/EIA-568-C.2 standard requires that installations be field tested to ensure the cabling system (*as installed*) meets the performance characteristics of a given category.
- Many cable vendors provide warranties on cable installations only if installations are certified according to these specifications.
- Many customers of cabling contractors insist on documented test results.
- J-Reporter generates standards-based certification labelling and report in PDF or CSV.



Resources

On device press the TOOLS button then tap the About Us icon

- Technical Assistance Center
 - +1-844-GO VIAVI (+1-844-468-4284)
 - tac@viavisolutions.com
- Certifier40G pages on viavisolutions.com
 - Application notes, user guides, videos, etc.
 - viavisolutions.com/Certifier40G
- Certifier Resource Center
 - Current software releases
 - <http://certifier.viavisolutions.com>

